

城陽山砂利採取地関係の地下水調査の実施について

1 山砂利採取地内の地下水調査

(財)城陽山砂利採取地整備公社が、同公社の設置する土壌・水質の保全に係る審議会の指導を受け、山砂利採取地内の地下水調査を実施

- ・ 地下水モニタリング調査
- ・ 汚染原因調査（土壌調査（ボーリング調査）、段階的揚水試験調査）

2 青谷地域における井戸水の水質検査

城陽市が、青谷地域の井戸のうち、検査希望のあった井戸の水質検査を実施

城陽山砂利採取地関係の地下水調査について

	山砂利採取地内の地下水調査		地域における井戸水の水質検査
	地下水モニタリング調査(資料3-1)	汚染原因調査(資料3-2、3-3)	青谷地域井戸水水質検査(資料3-4)
実施主体	(財)城陽山砂利採取地整備公社 土壌・水質の保全に係る審議会(公社設置)	(財)城陽山砂利採取地整備公社 土壌・水質の保全に係る審議会(公社設置)	城陽市
調査目的	埋戻事業の周辺地下水への影響を事前に把握するため、地下水位の挙動及び水質等を継続して調査する。	環境基準を超えるひ素、水銀が検出される原因を究明するため、必要な調査を行う。	環境基準を超えるひ素、水銀が検出されたことから、青谷地域住民の不安解消を図るため、井戸水の水質検査を実施する。
調査対象	山砂利採取地内の事業者設置井戸6か所、公社設置井戸3か所	①土質調査(ボーリング調査):水銀が検出されている井戸の周辺1か所 ②段階的揚水試験調査:ひ素が検出されている2か所中1か所の井戸	青谷地域の井戸のうち、検査希望のあった140か所
調査項目	ひ素、総水銀、pH、COD、電気伝導度 硫酸イオン、塩素イオン、全窒素、ケイ酸 Mg、Na、K、Ca等	①総水銀、アルキル水銀 ②ひ素、Fe、Mg、Al、pH、COD 電気伝導度	ひ素、総水銀
調査頻度	ひ素、水銀検出井戸は1回/月(当該項目) 他の事業者設置井戸は2回/年 公社設置井戸は4回/年	①1回 ②1回	各1回
実施時期	平成15年度から	①平成19年3月1~8日(ボーリング) ②平成19年3月2日(採水)	平成19年4月26日~5月21日(採水)
調査結果の概要	2か所の井戸からひ素、1か所の井戸から水銀が地下水環境基準を超えて検出されている。	①土壌から水銀類は検出されなかった。 ②深層地下水の影響が増えることにより、ひ素濃度が低下した。	ひ素は140か所すべてで検出されなかった。総水銀は139か所からは検出されず、1か所で地下水環境基準を超えて検出された。
今後の対応	モニタリングを継続する。	①周辺地域の土質調査の実施、地下水モニタリング調査の継続等により、総合的に原因究明を進める。 ②降水量、地下水利用実態との関係を含めて調査を進める。	引き続き専門家の意見を求めるとともに、調査等の取組を進めていく。